

(国語科)

言葉に対する感性を磨く指導の充実 ～伝え合う力を高めるための指導法の工夫～

大阪市立九条南小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由と主旨

本校では、「すべての教育活動を通して、『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の3要素をバランスよく育むことで、『生きる力』を身に付ける教育活動を推進する」を学校教育目標として研究実践を進めてきた。平成25年度から2年間、図画工作科を重点教科とし、図画工作科における表現及び鑑賞する活動において友だちの気づきを自身の造形活動にいかしたり、友だちの作品のよさを伝え合ったりすることで、児童の豊かな感性や豊かな世界観を広げてきた。この研究の中で、自分の作品に込めた思いや表現の工夫を発表したり、友だちの表現のよさや面白さを互いに認め合ったりしたことで、学習に積極的に取り組む児童が増え、自己有能感を高めることができた。しかし、交流する場面での言語活動そのものだけに着目すると、語いが少なかったり、話すポイントが定まらなかったりするなど、目的に応じた言語活動に課題が見られた。また、平成26年度の全国学力学習状況調査から、本校児童の実態として、A・B問題とも、「書くこと」「読むこと」は大阪市・全国ともに上回っているが、「話すこと・聞くこと」については大阪市・全国をわずかに下回っており、課題が見られた。

このような実態から、伝え合う活動を積極的に取り入れた指導法の工夫に努めることや、今後の学習指導において、「話すこと・聞くこと」を中心に「言語活動」を重視し「伝え合う力」を育成することが重要であると考えた。そこで、平成27年度の研究テーマを『言語に対する感性を磨く指導の充実～伝え合う力を高める指導法の工夫～』と設定し、国語科を通して「伝え合う力」を高めるための指導法の工夫について研究を進めてきた。今年度は、昨年度の課題を踏まえつつ、説明的な文章、中でも「読み比べる」单元の中で言語活動を中心に「伝え合う力」を高めるための指導法の工夫について研究を進めてきた。

2. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した

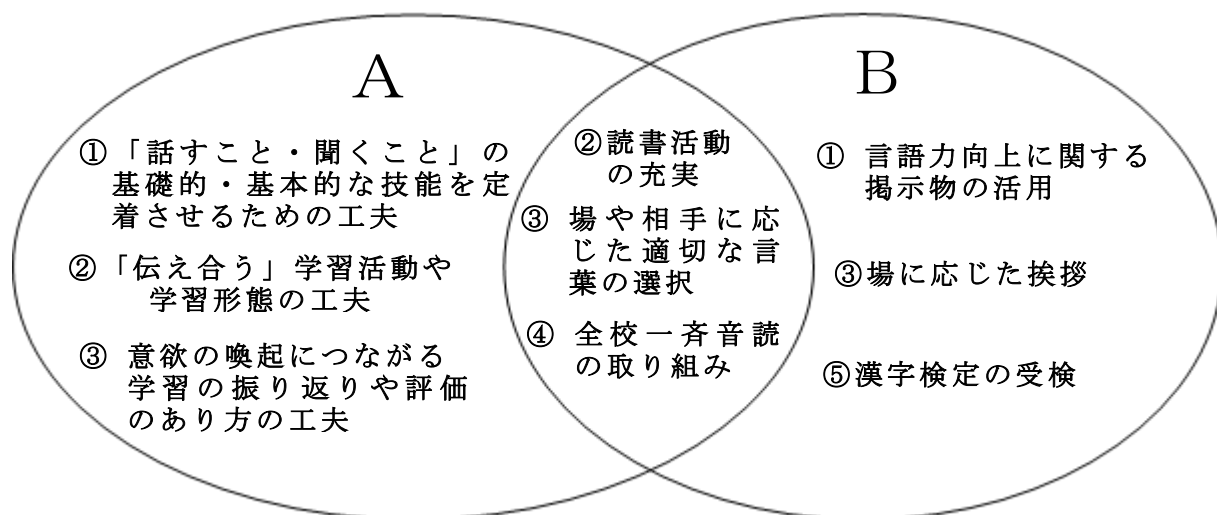
A 言語活動の充実を図る授業の展開

- ①「話すこと・聞くこと」の基礎的・基本的な技能を定着させるための工夫
(聞き手に伝わる声の大きさで話す、話している人を見て聞くなど、基礎的・基本的なことを徹底して指導することで、児童が学ぶ楽しさを実感できるようにする。)
- ②「伝え合う」学習活動や学習形態の工夫
(・思考ツールやワークシート、発表メモ・聞き取りメモの等の活用・図書室の活用)
- ③意欲の喚起につながる学習の振り返りや評価のあり方の工夫
(自己・相互評価カードの活用など) ※学びの跡がわかる評価を行う。

B 言語感覚を養うための環境の充実

- ①言語力向上に関する掲示物の活用
- ②読書活動の充実 (・蔵書数の充実と読書活動の活性化・小学生新聞の積極的活用)
- ③場や相手に応じた適切な言葉の選択
- ④全校一斉音読の取り組み (・音読名人発表会)
- ⑤漢字能力検定の受検

【視点Aと視点Bの関連】



3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 「たずね方名人」や「話し合いのすすめ方」など、学年・学級の実態に合わせて、伝え合う活動を支えるための工夫を行った。また、相手に考えや思いを適切に伝えるために、一人学びを行って事前に話し合うための材料を考えたり、付箋を活用して伝えたい内容を短い言葉でまとめたりすることで、安心して自分の考えや思いを伝え合うことができ、話すことに関しての基礎的・基本的な技能を育成することができた。
- 伝え合う場の支援として、学年・学級の実態に合わせて、ペアトークや少人数で意見交流する場を設け、全員が自分の考えを伝えることができるようにした。また、少人数で話したことは、必ず全体の場で交流するようにしたことで、自分の意見を話す機会が増え、筋道を立てて説明する力が身に付き、発表する意欲にもつながった。
- 今年度は、どの学年も説明的文章の中の「読み比べ」を中心に研究を行ってきた。教材文の系統を一つに絞って研究を進めてきたことで、各学年で児童が身に付けておくべき課題が明確になり、効果的に伝え合う学習を取り入れるための授業改善を行うことができた。

(2) 今後の課題

- 思考ツールについては、指導者がその特性を十分理解し、さまざまな学習活動で児童が活用できる場面をもっと増やしていく必要がある。また、低学年から思考ツールに触れるようにすることでそのよさを実感し、場面にあった思考ツールが活用できると考える。
- 学習意欲を高めるために授業の内容や展開の改善は行えたが、学習の振り返りや評価のあり方については、十分吟味することができなかった。自己・相互評価カードの活用など学びの跡がわかる評価のあり方について議論を深めていく。
- 「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の視点からの不断の授業改善が求められている。活動だけで終わらないようにするためには、一人一人が声を出して伝え合い、参加意識をもつことが何よりも大切である。今後も、国語科で高めた伝え合う力を学校生活の様々な活動にいかし、あらゆる場面で「話すこと・聞くこと」の基礎的・基本的な技能の定着をさらに図る。